

丹波縄文の森塾 第11日目活動報告 (令和6年2月17日)



天気：曇り

今日の活動は、シイタケの駒うち、竹弓の矢飛ばし、記念植樹、そして冬の里山散策と盛りだくさんのメニューでした。

まず、前回の活動で約1mに玉切りをした原木に、電動ドリルやインパクトドライバーを使って穴をあけ、800個のシイタケ菌を金槌を使って打ち込みました。今日、菌を打ち込んだホダ木からは、夏を2回越した来年の秋頃にシイタケが収穫できます。

竹弓の矢飛ばし体験の3回目。放った矢は20～30mも飛ぶようになり、その上達ぶりは素晴らしかったです。

昼食は、丹波三宝のひとつ「丹波大納言小豆」と塾生が栽培したもち米で作ったおこわと豚汁でした。豚汁には先輩が菌打ちをしたシイタケも入っていました。



午後からは、毎年、塾生が行っている記念植樹です。森公苑の親水河川のそばに「ザクロ」「オオデマリ」「ヒメリンゴ」「ハナモモ」「ユスラウメ」の苗木を植えました。大きく育て、花や実がつくのが楽しみです。

次に、冬の里山観察に出かけました。国蝶オオムラサキの飼育ケージ内で越冬幼虫を探しました。エノキの根本に落ちている葉を裏返すと、1～2cmの幼虫を発見することが出来ました。



続いて、里山の「春見つけ」をしました。昨年5月に実をとった梅はもう花を咲かせていました。ミツバツツジは新芽が出て、コブシには花芽がついていました。もうそこまで、春がやってきているようです。

